

OpenIDM インストールガイド

Ver 1.0 (2013/6/6)

(株)野村総合研究所
オープンソースソリューション推進室

変更履歴

版	日付	担当者	変更内容	備考
1.0	2013/06/06	田村	新規作成	

目次

<u>1. はじめに.....</u>	<u>4</u>
<u>2. OpenIDM のインストール要件.....</u>	<u>5</u>
<u>3. OpenIDM のインストール.....</u>	<u>6</u>
<u>4. 本番環境用リポジトリインストール手順 (MySQL 連携).....</u>	<u>7</u>
<u>5. OpenIDM のアンインストール.....</u>	<u>11</u>

1. はじめに

本ガイドは、OpenIDM 2.1 のインストール手順について説明します。

OpenIDM には OrientDB と Jetty が内蔵されているため、ダウンロードした zip ファイルを解凍して起動スクリプトを実行すればすぐに使用可能となります。ただし本番環境では、この構成は推奨されていません。OrientDB を MySQL かまたは Microsoft SQL Server に変更することが推奨されています。本手順書ではこのうち MySQL への変更手順についてのみ説明します。アプリケーションサーバは組み込みの Jetty 以外の使用はサポートされていません。



2. OpenIDM のインストール要件

OpenIDM をインストール・起動するための前提条件について説明します。OpenIDM 2.1.0 では、本番環境での使用のために次の構成がサポートされています。

リポジトリサーバ

次の JDBC リポジトリが本番環境での使用のためにサポートされています：

- MySQL 5.1 または 5.5 と Connector/J 5.1.18 以降
- Microsoft SQL Server 2008 Express

※ OrientDB は評価のためにのみ提供されています。

フレームワーク、コンテナ（スタンドアロンインストール）

提供されている Apache Felix と Jetty を使用して、スタンドアロンのサービスとして OpenIDM をインストールする必要があります。代替のコンテナはサポートされていません。本バージョンの OpenIDM には Jetty version 7.6.2.v20120308 がバンドルされています。

コネクタ

OpenIDM 2.1.0 には、次の OpenICF コネクタが同梱されています：

- CSV ファイル
- LDAP
- スクリプト化された SQL
- XML ファイル

ForgeRock 社では追加のコネクタを提供しています。[OpenICF project connectors site](#) に一覧があります。

OpenIDM は、Java SE JDK 6 update 24 以降が必要です。Oracle の JDK を使用する際は、Java 暗号化拡張機能 (JCE) ポリシーファイルが必要です。Windows システムでは、デフォルトの Jetty 構成で非ブロッキングソケットに関連する最近の JVM の修正を活用するため、Java SE JDK 7 update 6 以降を使用して下さい。最小限の評価インストールに 130 MB のディスク容量と 256 MB のメモリが必要になります。本番環境のインストールでは、ディスク容量とメモリの要件は、リポジトリのサイズおよび、OpenIDM が書き込む監査 / サービスログファイルのサイズに依存します。

3. OpenIDM のインストール

Oracle Java SE 6 update 24 以降がインストールされている必要があります。インストールされていない場合はインストールして下さい。

以下は、OpenIDM に内蔵されている OrientDB と Jetty を使用する構成のインストールから、起動停止までを確認する手順です。

1. 以下から OpenIDM の zip ファイルをダウンロードし、適当なディレクトリに解凍します。
<http://www.forgerock.org/openidm.html>
2. 解凍した openidm ディレクトリ内にある startup.bat(startup.sh)を実行して下さい。
 「OpenIDM ready」が表示されたら起動完了です。

```
# ./startup.sh
./startup.sh
Using OPENIDM_HOME: /root/oidm21/openidm
Using OPENIDM_OPTS: -Xmx1024m
Using LOGGING_CONFIG: -Djava.util.logging.config.file=/root/oidm21/openidm/conf/logging.properties
Using boot properties at /root/oidm21/openidm/conf/boot/boot.properties
OpenIDM version "2.1.0" (revision: 1952)
-> OpenIDM ready
```

「->」のあとに「shutdown」を入力すると停止します。

```
# -> shutdown
-> OpenIDM ready

#
```

4. 本番環境用リポジトリインストール手順 (MySQL 連携)

デフォルトで OpenIDM は内部リポジトリに OrientDB を使用しています。したがって OpenIDM を評価目的で使用する場合、データベースのインストールは必要ありません。ただし本番環境で OpenIDM を使用する場合、OrientDB をサポートされているリポジトリに置き換える必要があります。OpenIDM 2.1.0 は内部リポジトリとして MySQL と Microsoft SQL Server の使用をサポートしています。以下に MySQL への変更手順について説明します。

サポートするバージョンの詳細については、「2. OpenIDM のインストール要件」を参照して下さい。

手順. OpenIDM と MySQL を連携するには

MySQL をローカルホストにインストールした後、OpenIDM が新しいリポジトリを使用できるように、以下の手順で OpenIDM をセットアップしてください。

MySQL の Connector/J のバージョン 5.1 以降を MySQL の Web サイトからダウンロードしてください。
 ダウンロードしたファイルを解凍し、openidm/bundle ディレクトリに jar ファイルをコピーします。

```
# cp mysql-connector-java-version-bin.jar /path/to/openidm/bundle/
```

OpenIDM が停止していることを確認してください。

```
# cd /path/to/openidm/
# ./shutdown.sh
OpenIDM is not running, not stopping.
```

openidm/conf/repo.orientdb.json を削除します。

```
# cd /path/to/openidm/conf/
# rm repo.orientdb.json
```

openidm/samples/misc/repo.jdbc.json を openidm/conf directory にコピーします。

```
# cd /path/to/openidm/conf
# cp ../samples/misc/repo.jdbc.json .
```

MySQL に OpenIDM 用のデータ定義言語のスクリプトをインポートします。

```
# ./bin/mysql -u root -p < /path/to/openidm/db/scripts/mysql/openidm.sql
Enter password:
#
```

内部のリポジトリとして使用するため openidm データベースを作成します。

次にデータベースを更新するために必要なすべての権限を持つユーザ openidm を作成します。ユーザ openidm のパスワードは openidm とします。

```
# cd /path/to/mysql
# ./bin/mysql -u root -p
Enter password:
Welcome to the MySQL monitor.  Commands end with ; or \g.
Your MySQL connection id is 18
Server version: 5.5.19 MySQL Community Server (GPL)
...
mysql> use openidm;
Reading table information for completion of table and column names
You can turn off this feature to get a quicker startup with -A

Database changed
mysql> show tables;
+-----+
| Tables_in_openidm |
+-----+
| auditaccess       |
| auditactivity     |
| auditrecon        |
| configobjectproperties |
| configobjects     |
| genericobjectproperties |
| genericobjects    |
| internaluser      |
| links             |
| managedobjectproperties |
| managedobjects    |
| objecttypes       |
| schedulerobjectproperties |
+-----+
```

```

schedulerobjects
uinotification
+-----+
17 rows in set (0.00 sec)

```

テーブル名は OrientDB で使用されるものと同様です。

MySQL のデプロイを反映させるため、必要に応じて `openidm/conf/repojdbc.json` を更新します。

```

# vi openidm/conf/repo.jdbc.json
"connection" : {
  "dbType" : "MYSQL",
  "jndiName" : "",
  "driverClass" : "com.mysql.jdbc.Driver",
  "jdbcUrl" : "jdbc:mysql://localhost:3306/openidm",
  "username" : "openidm",
  "password" : "openidm",
  "defaultCatalog" : "openidm",
  "maxBatchSize" : 100,
  "maxTxRetry" : 5,
  "enableConnectionPool" : true
},

```

OpenIDM 内部リポジトリとして使用するために MySQL をセットアップしたら、セットアップが成功したことを確認するため、OpenIDM を起動します。起動したら、「scr list」を入力します。`repo.orientdb` が `unsatisfied` となっている一方で、`repojdbc` が `active` となっているはずです。

```

# cd /path/to/openidm
# ./startup.sh
Using OPENIDM_HOME: /path/to/openidm
Using OPENIDM_OPTS: -Xmx1024m
Using LOGGING_CONFIG:
-Djava.util.logging.config.file=/path/to/openidm/conf/logging.properties
Using boot properties at /path/to/openidm/conf/boot/boot.properties
-> scr list
Id State Name
[ 19] [active] org.forgerock.openidm.config.starter

```

[23]	[active] org.forgerock.openidm.taskscanner
[8]	[active] org.forgerock.openidm.external.rest
[12]	[active] org.forgerock.openidm.provisioner.openicf.connectorinfoprovider
[15]	[active] org.forgerock.openidm.ui.simple
[1]	[active] org.forgerock.openidm.router
[22]	[active] org.forgerock.openidm.scheduler
[14]	[active] org.forgerock.openidm.restlet
[7]	[unsatisfied] org.forgerock.openidm.external.email
[18]	[unsatisfied] org.forgerock.openidm.repo.orientdb
[6]	[active] org.forgerock.openidm.sync
[3]	[active] org.forgerock.openidm.script
[5]	[active] org.forgerock.openidm.recon
[2]	[active] org.forgerock.openidm.scope
[10]	[active] org.forgerock.openidm.http.contextregistrator
[20]	[active] org.forgerock.openidm.config
[0]	[active] org.forgerock.openidm.audit
[21]	[active] org.forgerock.openidm.schedule
[17]	[active] org.forgerock.openidm.repo.jdbc
[16]	[active] org.forgerock.openidm.workflow
[13]	[active] org.forgerock.openidm.provisioner.openicf
[4]	[active] org.forgerock.openidm.managed
[9]	[active] org.forgerock.openidm.authentication
[11]	[active] org.forgerock.openidm.provisioner

以上でインストールは完了です。

5. OpenIDM のアンインストール

この章では、OpenIDM をアンインストールする方法と、別の場所に既存のインストールをバックアップする方法を示します。

手順. OpenIDM をアンインストールするには

1. OpenIDM サービスが起動していれば停止します。「->」プロンプトまたは、「System Information」タブをクリックして Felix コンソール上のコマンドラインで shutdown を入力します。

```
-> shutdown
```

2. OpenIDM をインストールしたファイルシステムディレクトリを削除します。

```
# rm -rf /path/to/openidm
```

3. 内部リポジトリ用に JDBC データベースを使用している場合は、openidm データベースをドロップします。

手順. OpenIDM をバックアップするには

別のディレクトリに OpenIDM を移動したい場合は、アンインストールして再インストールする必要はありません。既存の OpenIDM インスタンスを移動するには、次の手順に従います：

1. OpenIDM を停止します。

```
-> shutdown
```

2. felix-cache ディレクトリを削除します。

```
# cd path/to/openidm
# rm -rf felix-cache
```

3. ファイルを移動します。

```
# mv path/to/openidm path/to/new-openidm
```

4. 新しいディレクトリで OpenIDM を起動します。

```
# cd path/to/new-openidm  
# ./startup.sh
```

以上でアンインストールは完了です。